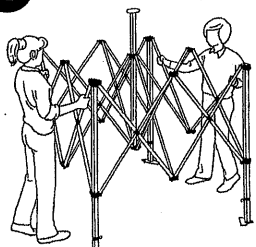
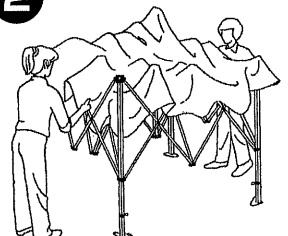
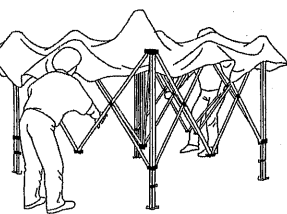
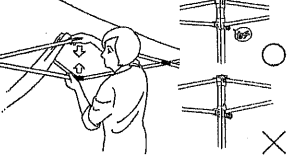
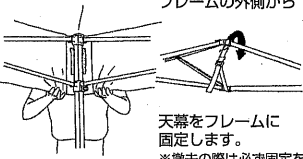
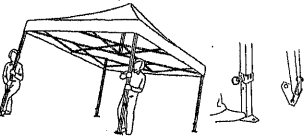
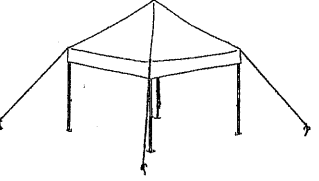
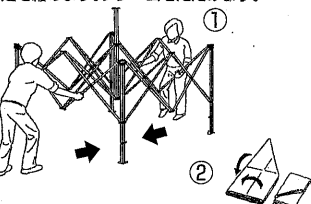
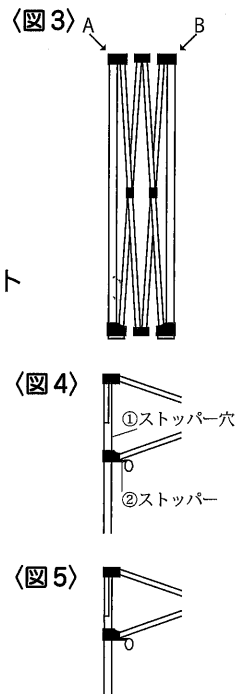


2 テントの設営方法

| | | | |
|---|---|--|---|
| <p>1 組み立て方</p>  <p>フレームを収納袋から取り出し半ば返げます。</p> | <p>2</p>  <p>フレームに天幕をかぶせます。この時点で天幕4隅の方向と天幕の中央部分を合わせるだけにして天幕4隅は固定しないでください。</p> | <p>3</p>  <p>下側V字部分を少し持ち上げながら引っ張り、開きます。</p> | <p>4</p>  <p>サイドクロスフレームを上図それぞれの方向へ閉めると4隅がロックされます。</p> <p>注意点 きちんとロックされているか必ずご確認ください。</p> |
| <p>5</p>  <p>金具の付いたバンドはフレームの外側から天幕をフレームに固定します。 ※撤去の際は必ず固定をはずしてからたたんでください。</p> <p>フレーム柱のマジックテープと天幕4隅のマジックテープを合わせてください。</p> | <p>6</p>  <p>ストッパーボタンが一目の穴にはまる迄、4本の足をのばします。</p> | <p>7 完成</p>  <p>※ロープはしっかりとテントの対角線上に張ってください。杭は、テント支柱下部の部分へ地面に対し、少し斜めにしっかりと打ち込んでください。</p> | <p>片づけ方</p> <p>天幕の固定を全てはずします。⑥の固定バンドも外します。ストッパーピンを全て解除し、足を縮めます。フレームをたたみます。</p>  <p>天幕をフレームからはずし折りたたみます。</p> |

設営方法

- 右図3のA・Bを持ち、テントを浮かせながらゆっくりと左右に1m位に広げてください。
- 持つ位置を組み立て方③のように持ち替え、テントを浮かせながらストッパーの穴(図4の①)の下にストッパー(図4の②)がくるまでゆっくり広げてください。
- 天幕は、フレーム全体を覆うように付けます。この時点で天幕4隅の方向とテントの中央部分を合わせるだけにして、天幕4隅は固定しないでください。(組み立て方②参照)
- 組み立て方④のように矢印の方向へはさむように力を加えてください。このときに4箇所(6足のテントならば6箇所)にストッパーがロックされているか確認後(図5参照、組み立て方④参照)天幕4隅のマジックテープを固定してください。
- 天幕の内側にあるマジックテープを、内側のフレームに固定してください。バンドで天幕をフレームに固定します。(組み立て方⑤参照)
- 天幕の4隅にあるリングに支線をとるためのロープを結んでください。
- テントの足をご希望の高さまでスライドし、この時、組み立て方⑥のように同方向の足を同じに上げ、その後、残りの片方も同じにスライドしてください。
- ロープは、テントの対角線上に張り、杭は組み立て方⑦のように地面に対し、少し斜めに打ち込みます。この時、ロープは弛まないように張り、砂袋は足の土台に結んでください。



鋳物重りの設置方法

- 重りのきりこみ部分(右図A)と横にあるとって用の穴をご確認ください。
- フレームの足の部分に、重りのきりこみ部分を奥までしっかりと入れこみます。

使用上の注意

- テントの設置場所は傾斜のない平坦な場所を選び、重りも設置して下さい。
- 持ち運びはスベリ止めがついている軍手をはめ、左右の持ち手穴にしっかりと手を入れて、足元に気をつけて運んで下さい。
- 本製品は使用とともに劣化致します。ひび割れなどの異常がある場合にはただちに交換等の適切な処置を行って下さい。



重りは(10kg・20kg)あります。手や足等に落としたりしますと、怪我をする恐れがありますので、しっかりと重りのとっての穴に手を入れて持ってください。

